

作・画/吉永直子



※「荒城の月」をじっくり鑑賞するため、詩の単元に組みこんで年間指導計画を立ててもよいかもしれません。

この後は
暗唱をさせます。

ぎあん
かねのこえ
ひびきあり

授業のあたりに十分ほど
発表する時間を設けて
継続的に指導すると
いいでしょう。

そうじゃの
えーっと

自宅での暗唱の練習をすると
親や祖父の世代も
暗唱していることに
気づくでしょう。

「あんなしょうじゃの
かねのこえ
かねのこえ
諸行無常の
かねのこえ」

あれ!!?

ひとへに
風の前の
ちりに
同じ

「荒城の月」、「平家物語」と
学習することで
時代が違っても人の営みには
共通点があり、それが現代へと
つながっていることを感じること
ができます。

おこれる
者は
久しからず

おこれる
人も
かからず

光
いまいづこ

さつそく
授業に
取り入れて
みたいで
す

次回も実践的な例を
ご紹介します

つづく

「平家物語」の学習に
入ります。

「荒城の月」は明治時代の
歌だけど、これから
八百年以上前につくられた
お話を読みます

「たけき者も
つひには滅びぬ、
ひとへに風の前の
塵に同じ。」

わ、悲しい

これ
戦に
負けた後でしょ

観念的で言葉も難しい
「平家物語」の冒頭部を
子どもはなんとなく
とらえることができます。

はかないなあ

「荒城の月」
みたいだ

そのため音読へも
スムーズに
つなげられます。

ぎあん
しょうじゃの
かねのこえ
しまぎょう
おじょうの
ひびきあり

次に、琵琶奏者が弾き語りをしている
音声を聴かせます。

「国語デジタル教科書」を
使えば映像もいっしょに
見せることができ、
子どもたちは引きこまれます。

じゃ、もう一度
音読して
みよう

ぎあ
おあ
おあ

しょうじゃ
おあ

春の夜の
夢のさとし

おこれる
人も
かからず